



**STILL ALIVE**  
国際芸術祭 あいち2022  
2022.7.30-10.10

愛知県政記者クラブ  
一宮日刊記者会  
常滑記者クラブ  
中部芸術文化記者クラブ 同時

2022年5月16日(月)  
国際芸術祭「あいち」組織委員会  
電話：052-971-3111(代表)

## 国際芸術祭「あいち2022」プレイベント（愛知芸術文化センター） を開催します

国際芸術祭「あいち」組織委員会は、本年7月の国際芸術祭「あいち2022」開幕に向けて、「あいち2022」の主な会場の一つである愛知芸術文化センターにてプレイベントを開催しますので、以下のとおり参加者を募集します。

本イベントでは、「STILL ALIVE」とあいち」をテーマとして、愛知芸術文化センターで展示を行う参加アーティストであり、愛知を拠点に活動している大泉和文氏、横野明日香氏を迎えて、片岡真実 芸術監督らによるトークを行います。

(今後、常滑市、有松地区においてもプレイベントを開催する予定です。一宮市については発表済みです。)

### 1 イベント概要

日 時：2022年6月5日(日) 午後1時30分から午後2時30分まで  
(開場：午後1時)

会 場：愛知芸術文化センター12階 アートスペースA(名古屋市東区東桜一丁目13-2)  
※地下鉄栄駅から徒歩約3分

定 員：90名(先着順・要申込)

参加費：無料

登壇者：参加アーティスト 大泉和文(美術家/中京大学教授)

参加アーティスト 横野明日香(アーティスト)

「あいち2022」芸術監督 片岡真実(森美術館館長/国際美術館会議(CIMAM)会長)

同チーフ・キュレーター 飯田志保子(キュレーター)

同キュレーター(現代美術) 中村史子(愛知県美術館主任学芸員)

愛知県美術館館長 拝戸雅彦

テーマ：「STILL ALIVE」とあいち

備 考：イベント当日の様子について、後日オンラインで配信予定

主 催：国際芸術祭「あいち」組織委員会

### 2 申込方法

国際芸術祭「あいち2022」公式Webサイトに掲載の申込フォームからお申込みください。  
(<https://aichitriennale.jp/pre-event0605-entry/index.php>)

※ 郵便、FAXでお申込みの場合は、「①氏名、②お住まいの地域(市区町村まで)、③日中連絡のつく電話番号」を御記入の上、問合せ先の住所またはFAX番号へお送りください。

・申込締切 2022年6月1日(水)午後5時まで ※先着90名。定員に達し次第締め切ります。

### 3 登壇者の略歴

#### 大泉 和文 Oizumi Kazufumi

美術家／中京大学教授

1993年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。1991年以降、20世紀初頭の未完のアヴァンギャルド建築を対象に、三次元CGによる再現を試みる。併行して、ドローイング・マシンや《可動橋》のシリーズなど、大規模なインタラクティブ・インスタレーション作品を制作してきた。その特徴は、展示空間に応じた仮設の通路やステージを設置し、観客に空間体験を誘発する点、そして作品要素が物理的に動く点にある。近年の主な個展はStanding Pine（2020年、愛知）、N-Mark 5G（2019年／2018年、愛知）にて開催。その他にアルスエレクトロニカ・フェスティバル2019（リンツ、オーストリア）、神戸ビエンナーレ2007（兵庫）への参加など。愛知県立芸術大学講師を経て、現在、中京大学教授。



#### 横野 明日香 Yokono Asuka

アーティスト

愛知県生まれ。愛知県拠点。2013年愛知県立芸術大学大学院修了。ダムや高速道路などの公共建築物から、ポットや花瓶といった日常にあるものまで、幅広いモチーフを油彩で描く。人がものを見ていかに空間を感じるのかということに関心があり、構図やタッチ、絵の具の重ね方や色彩など、絵画の基本的要素を用いてそれを表現している。近年の主な展示に、「現代美術のポジション2021-2022」名古屋市美術館（2021-2022年、愛知）など。



#### 片岡 真実 Kataoka Mami

森美術館館長／国際美術館会議（CIMAM）会長

ニッセイ基礎研究所都市開発部、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館（東京）。2020年より同館館長。2007～2009年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン、英国）にて、国際ショナル・キュレーターを兼務。第9回光州ビエンナーレ（2012年、韓国）共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ芸術監督（2018年、オーストラリア）。2014年から国際美術館会議（CIMAM）理事を務め、2020年より会長（～2022年）。



Photo: Ito Akinori

## 飯田 志保子 Iida Shihoko

キュレーター

東京都生まれ。名古屋市在住。1998年の開館準備期から11年間東京オペラシティアートギャラリーに勤務。2009年から2011年までブリスベンのクイーンズランド州立美術館/現代美術館（豪州）の研究機関ACAPAに客員キュレーターとして在籍。韓国国立現代美術館2011年度インターナショナル・フェローシップ・リサーチャー。アジア地域の現代美術、共同企画、芸術文化制度と社会の関係に関心を持ち、ソウル、豪州、ニューデリー、ジャカルタ各地域で共同企画を实践。第15回アジア・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ2012、あいちトリエンナーレ2013、札幌国際芸術祭2014キュレーター、あいちトリエンナーレ2019チーフ・キュレーター（学芸統括）を務めた他、2014年から2018年まで東京藝術大学准教授。国際美術館会議（CIMAM）、国際ビエンナーレ協会（IBA）、美術評論家連盟（AICA Japan）会員。



Photo:  
ToLoLo studio

## 中村 史子 Nakamura Fumiko

愛知県美術館主任学芸員

愛知県生まれ。東海圏から関西圏を拠点に活動。専門は視覚文化、写真、コンテンポラリーアート。2007年より愛知県美術館に勤務。美術館で担当した主な展覧会に「放課後のほらっぱ」（2009年）、「魔術/美術」（2012年）、「これからの写真」（2014年）がある。また、美術館では若手作家を個展形式で紹介するシリーズ「APMoA Project, ARCH」（2012-2017年）を立ち上げた他、2010年からあいちトリエンナーレに主会場のスタッフとして携わり、美術館活動と芸術祭の連携に取り組んできた。2015年より日本と東南アジアのキュレーターが協働で調査、展覧会企画を行う美術プロジェクト「Condition Report」（国際交流基金主催）に参加し、2017年にはタイのチェンマイにてグループ展「Play in the Flow」を企画、実施する。



## 拝戸 雅彦 Haito Masahiko

愛知県美術館館長

名古屋市生まれ。1992年10月から2008年3月まで愛知県美術館の学芸員として勤務。「ファウスト・メロッティ」（1999年）、「戸谷成雄—森の襷の行方」（2001年）、「アジアの潜在力」（2005年）（共同キュレーション）、「愉しき家」（2006年）、「サイクルとリサイクル」（2007年）など。ルイジペッチ現代美術館（プラート市、イタリア）での日本現代美術展「先立未来」（2001年）での共同キュレーションや、ソウル市立美術館でのアジアの都市単位の美術動向を扱う「city\_net\_asia」（2006年）の名古屋セクションにも関わる。愛知県があいちトリエンナーレの事業を立ち上げた2008年から9年間、芸術祭推進室に異動。3回のトリエンナーレにキュレーターとして関わった。2017年から愛知県美術館企画業務課長、2020年からの副館長職を経て、2021年4月から現職。



#### 4 問合せ先

国際芸術祭「あいち」組織委員会事務局

住 所：〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目 13-2 愛知芸術文化センター 6 階  
(愛知県県民文化局文化部文化芸術課国際芸術祭推進室内)

電 話：052-971-3111

F A X：052-971-6115

U R L：<https://aichitriennale.jp/>

E-Mail：triennale@pref.aichi.lg.jp